

アピチャッポン特集!

at 田並劇場

熊野でアピチャッポンということ

期間：2022年6月5日(日)～6月12日(日)

会場：田並劇場

主催：田並劇場 共催：紀南アートウィーク実行委員会

タイにおいて、もっとも有名な映画監督であり、現代アーティストとしても活動するアピチャッポン・ウィーラセタクン監督の代表作2本を、2週にわたり1本ずつ上映します。

アピチャッポン・ウィーラセタクンは、2021年11月に和歌山県田辺市・白浜町にて開催された紀南アートウィーク2021にて、田辺市高山寺会場にて「My Mother's Garden」を展示し、その作品に触れた方もいらっしゃるかと思います。



My Mother's Garden (for Dior) 2007
©Apichatpong Weerasethakul

昨年、カンヌ映画祭で審査員賞を獲得し、カンヌ4冠の称号を得たアピチャッポン・ウィーラセタクンの新作「メモリア」がこの3月より日本でも公開されています。映画作家としても、現代アーティストとしても、世界的に注目されるアピチャッポン・ウィーラセタクンですが、日本の地方において、その作品に触れる機会はほぼありません。しかしながら、アピチャッポン・ウィーラセタクンの関心は、いわゆる「周縁」「異界」「精霊」等といったものに注がれています。タイの地方から作品を発表し、国際的に認められているアピチャッポン作品を通じて、ここ紀南や熊野の魅力や個性を発掘し、その価値を世界に発信するための原体験をされてみませんか？

スケジュール

2022/6/5(日)『ブンミおじさんの森』上映会 13:00～ 講演会・座談会① 16:00～

2022/6/12(日)『光りの墓』上映会 13:00～ 講演会・座談会② 16:00～

料金

上映会+講演会 3,000円/回 上映会のみ、講演会のみ 各 1,500円/回 ※上映会、講演会共に高校生以下無料
講演会アーカイブ視聴 1,000円/回

上映作品

ブンミおじさんの森

UNCLE BOONMEE WHO CAN RECALL HIS PAST LIVES

2010 | イギリス、タイ、ドイツ、フランス、スペイン | カラー | 114分

カンヌ国際映画祭パルムドール | カイエ・デュ・シネマ ベスト1ほか



腎臓の病に冒され、死を間近にしたブンミは、妻の妹ジェンをタイ東北部の自分の農園に呼び寄せる。そこに19年前に亡くなった妻が現れ、数年前に行方不明になった息子も姿を変えて現れる…。「今、タイには“不適切”な活動を禁止し、それらを根こそぎにする政府機関が存在します。そのこととブンミおじさんの物語、おじさんが信じていることを関連づけないわけにはいきません。ブンミおじさん

んは、何か消えゆくもの、すなわち昔ながらの映画館や劇場のように廃れてゆく何か、現代的な風景の中には居場所のなくなった古いスタイルの象徴なのです」(A.W.)

光りの墓

CEMETERY OF SPLENDOUR

2015年 | タイ、イギリス、フランス、ドイツ、マレーシア | カラー | 122分

カンヌ国際映画祭ある視点部門公式出品 | アジア太平洋映画賞最優秀作品賞ほか



タイ東北部の町。かつて学校だった病院。原因不明の“眠り病”にかかった兵士たち。ある日、病院を訪れたジェンは前世や過去の記憶を見る力を持った若い女性ケンと知り合い、眠り続ける兵士イットの面倒を見始める…。「3年ほど前、ある病院で、謎めいた病気にかかった40人の兵士が隔離されているというニュース記事を読みました。僕は自分が育ったコーンケンの病院と学校のイメージをそ

の話に重ねました。当時、僕は眠ることに魅了され、夢を書き留めることに熱中していました。それは、タイの現実のひどい状況から逃げる方法だったんだと思います」(A.W.)

アピチャップン関連講演会・座談会

①「アピチャップン その魅力」 2022/6/5 (日)

講師：中村紀彦

座談会：中村 紀彦氏（アピチャップン研究家）、武井 みゆき氏（配給会社ムヴィオラ代表）、
林 憲昭（田並劇場）、藪本 雄登（紀南アートウィーク）

内容：アピチャップン特集の導入ともなる講演会となります。アピチャップン・ウィーラセタクンに関する馴染みの無い方々に、その過去作品の紹介、新作等の魅力を伝えることを主眼に座談会を行います。日本唯一のアピチャップン研究家の中村紀彦氏、配給会社ムヴィオラ代表の武井みゆき氏をゲストとして招待し、その魅力について語り合います。また、講演の導入には、中村氏から「アピチャップン・ウィーラセタクン クロニクル」と題した講義をお願いする予定です。

②「アピチャップンと熊野 - アニミズムの世界へ -」 2022/6/12 (日)

座談会：石倉敏明氏（秋田公立美術大学准教授）、藪本 雄登（紀南アートウィーク）

内容：紀南 / 熊野地域の歴史、文化とアピチャップン作品には、何か親和性を感じられずにはられません。2022年3月に発売された「ユリイカ 特集：アピチャップン・ウィーラセタクン」に「異化されたゾミアの物語 - アピチャップン・ウィーラセタクン『真夏の不思議な物体』をめぐって」を寄稿された秋田公立美術大学の石倉敏明先生（神話学者、芸術人類学者）をお招きし、熊野とアピチャップンの思想の相違、類似やその魅力について語り合います。

アピチャッポン・ウィーラセタクン



タイ北東部のコンケンで育つ。1994 年から映画やビデオの短編作品を作り始め、2000 年に初の長編作品を完成させる。また、1998 年以降、多くの国で展覧会やインスタレーションを行っており、ウィーラセタクンの作品は、しばしば非線形で、強い価値転倒を生じさせ、記憶を扱い、個人的な政治や社会問題を扱っている。

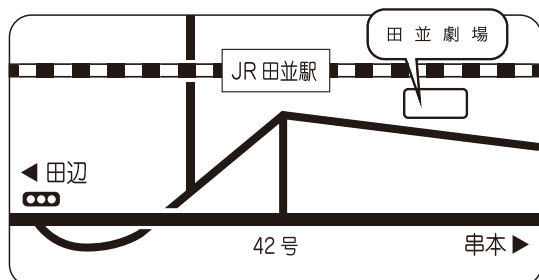
ウィーラセタクンのアートプロジェクトと長編映画は、世界でも広く認知され、カンヌ映画祭の最高賞を含む多くの映画祭で賞を獲得している。『プリスフリー・ユアーズ (2002 年)』(2002) でカンヌ映画祭の「ある視点」部門賞、『トロピカル・マラディ (2004 年)』で審査員賞を受賞。さらに 2010 年に制作された『ブンミおじさんの森』は、タイ人初となるカンヌ映画祭最高賞を受賞しており、最新作の『メモリア (2021 年)』では、審査員賞を受賞し、カンヌ 4 冠となった。

会場：田並劇場



田並劇場は、和歌山県串本町田並に、昭和 25 年頃に建てられた木造建造物です。昭和 40 年頃まで地元の劇場として機能していましたが、その後使われなくなります。廃墟となっていた劇場を、2014 年から開始した「田並劇場再生プロジェクト」により、4 年の歳月をかけ、再生し地域の文化施設として復活しました。

現在では、月に 1~2 回の映画上映会を始め、ライブイベントやパフォーマンス、田並劇場カフェ、造形教室、フラ教室など多目的な文化施設として使用し、再び人々が集う文化的な交流の場所として活用しています。



田並劇場

〒649-3515 和歌山県東牟婁郡串本町田並 1547
TEL 0735-70-1046 or 0735-66-0557 (林自宅)
お問合せ Mail tacota@tanami.jp

tanami.jp

